下都賀管内水稲技術資料　No.２

令和６年７月５日
下都賀農業振興事務所

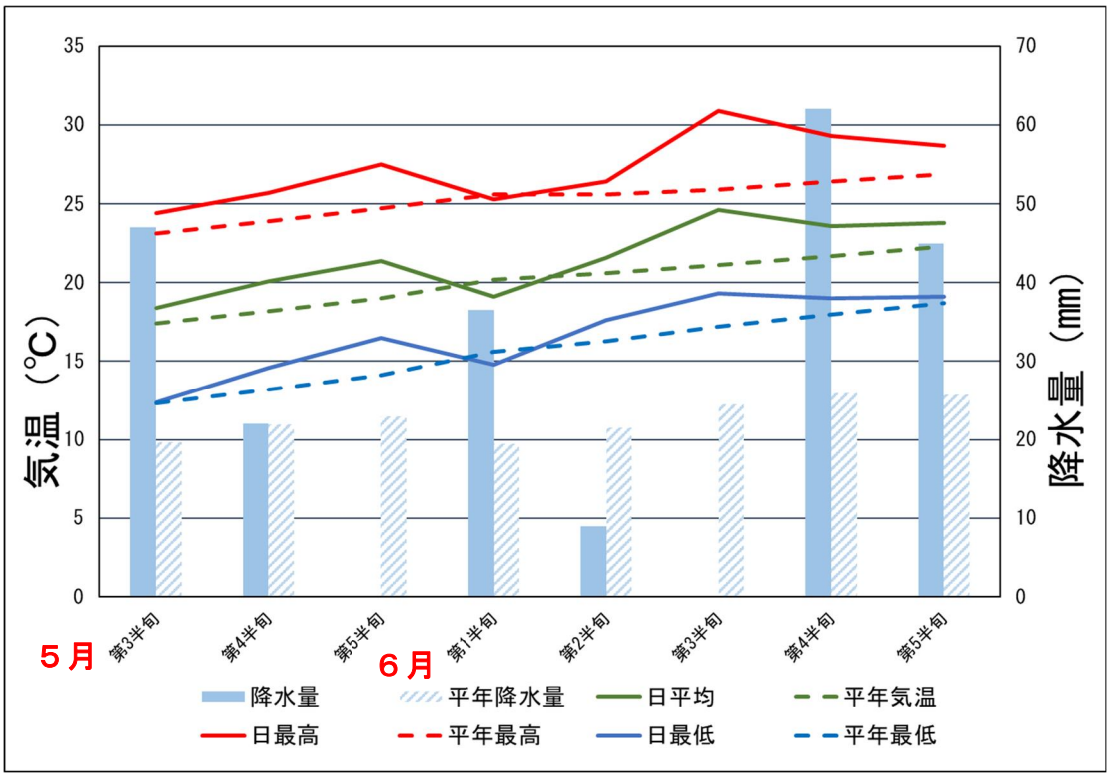
重点ポイント

※5/4 移植の場合

① 早植コシヒカリは７月 22 日に出穂すると予測されます。
② 出穂前の水管理、斑点米カメムシ対策を徹底しましょう！
③ 普通植は、茎数が確保されたら間断かん水へ！

１　気象の経過

６月は５月から続いて高温で経過しました。梅雨入りは６月 21 日頃と発表されました。



※小山市アメダスデータ

今後も高気温が予想されます

２ 気象庁の１か月予報（６月 27 日発表）

気温、降水量、日照時間の各階級の確率（%）					
気温	関東甲信地方	向こう１か月 06/29～07/28	10	10	80
		１週目 06/29～07/05	10	10	80
		２週目 07/06～07/12	10	30	60
		３～４週目 07/13～07/26	10	40	50
降水量	関東甲信地方	向こう１か月 06/29～07/28	30	40	30
日照時間	関東甲信地方	向こう１か月 06/29～07/28	30	40	30

低い(少ない)　平年並　高い(多い)

３ 早植・水稲生育診断ほ（６月 22 日調査）の生育調査結果

６月 22 日時点では、昨年と比べ、草丈・茎数・葉色が平年よりも大きくなりました。生育は昨年並みで順調に進んでいます。

表１　水稲生育診断ほ（小山市鏡）の生育調査結果

品種：コシヒカリ 移植日：５月３日	本　年 (６月 22 日調査)	昨　年
草丈(cm)	61.8	62.5
茎数(本/㎡)	749	709
葉　齢	10.4	10.3
葉色(葉色板)	3.6	3.0
生育診断値(葉色×茎数)	2,723	2,127

４ 水稲の出穂予測について

栃木県農業総合研究センターの出穂予測では、今後平年並みの気温で経過すると、下都賀管内で５月４日に移植した「コシヒカリ」では、

７月２２日

に出穂すると予測されます。

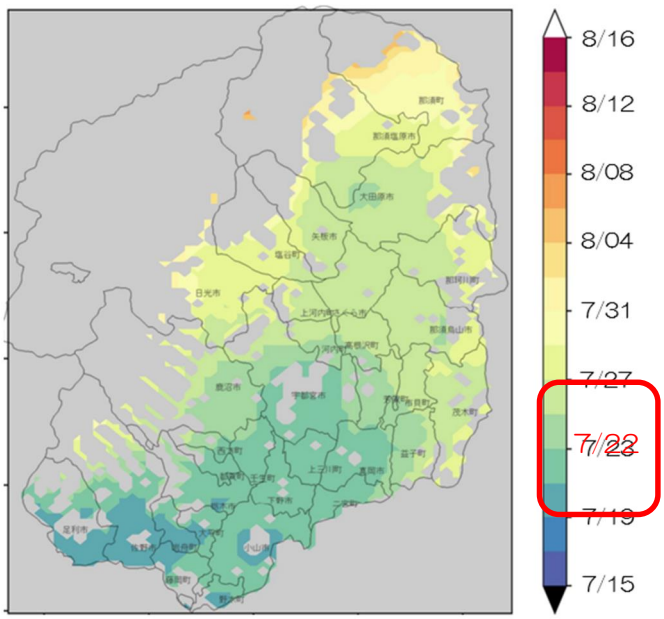
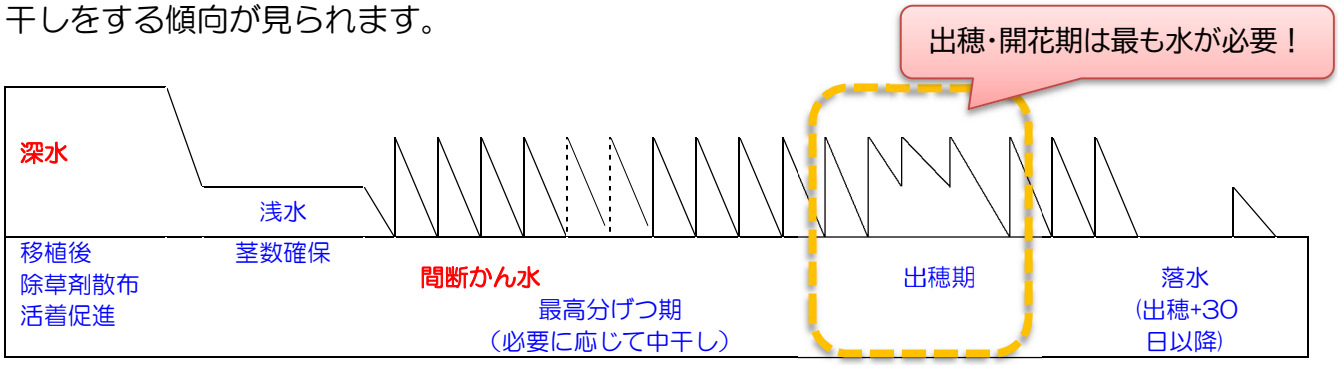


図１ メッシュ農業気象データによる県内出穂期予測（農研センター計算）
５ 月 ４ 日移植を基準として DVR 法で計算（計算基準 ６ 月 23 日）

５　水管理

間断かん水を継続し、根の活力向上に努め葉色の低下を防ぎましょう。
出穂期は最も水を必要とする時期です。不足しないように注意しましょう。この時期に水が不足すると、受精や稔実に障害が起き、籾数が減少してしまいます。田面が乾いてひびが入る程の極端な中干しは避けましょう。コンバインによる収穫しやすさの観点等から強めの中干しをする傾向が見られます。



６　カメムシ対策

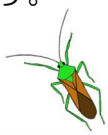
今年はカメムシの多発が懸念されます。品質低下を防ぐために、防除を徹底しましょう！

昨年の夏は猛暑！

昨年（令和５年）の夏は、記録的な猛暑でした。夏が暑いと、斑点米カメムシの数が増加します。
その影響で水稲の品質が低下した年でした。

今年の冬は暖冬

今年（令和５～６年）は暖冬で経過しました。暖冬の年は、寒さで死んでしまう虫の数が少ないため、春から夏にかけて水田に飛来する虫の数が多くなります。



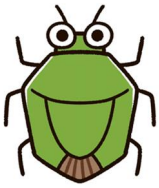
水稲の品種構成の変化

近年、食用米に加え、飼料用米などの作付が増加しています。飼料米などは、刈取りが遅くなるため、秋にカメムシのエサとなる稲が長くほ場にあることで、カメムシの栄養条件が良くなっています。

今年の夏も猛暑予想

気象庁から、今年の夏も暑くなるとの予報が出されています。また、エルニーニョが収束しラニーニャ現象になることが予想されていることから、今年の夏も暑くなりそうです。

カメムシが増加する要因が揃っています



《斑点米カメムシ》

本田内の除草及び水田周辺の草刈り（水稲の出穂２～３週間前と出穂期頃の２回）を行ってカメムシ類の発生しにくい環境を整えるとともに、出穂期以降に斑点米カメムシ類が水田内に確認できる場合は薬剤防除を行いましょう。

特に、今年は出穂が早まる事が予想されます。草刈りや薬剤散布のタイミングを逸しないように注意してください。

7月　カメムシ防除カレンダー

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
	①回目草刈り					
7	8	9	10	11	12	13
①回目草刈り						
14	15	16	17	18	19	20
21	22 出穂	23	24	25	26	27
②回目草刈り				薬剤防除		
28	29	30	31			

【畦畔等の草刈り】

★①＋②の２回草刈りが効果的！
①回目：出穂２～３週間前
②回目：出穂期頃

★①＋②ができない場合は出穂１０日前までに１回草刈り

【薬剤防除】

粒剤利用：出穂期から出穂後７日
液剤利用：乳熟初期（出穂後７日～出穂後 10 日）

図２　出穂を７月 22 日に想定した場合の作業カレンダー

７　穂肥

穂肥時期は**出穂 15 日前（幼穂長が 2cm の頃。倒伏懸念の場合は 10 日前、籾数不足が懸念される場合は１８日前）**に、10a 当たりＮ：２～3kg 程度の施用を基準とします。

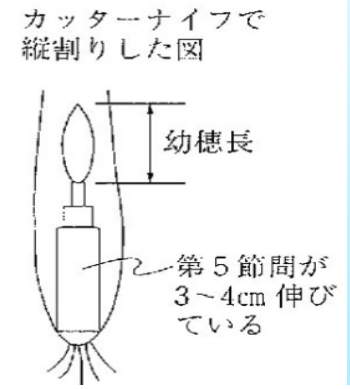
穂肥の施用時期は、必ず幼穂長で出穂前日数を把握し、生育診断を実施したうえで決定しましょう。

表２　県中南部：早植コシヒカリの生育診断指標値（栽植密度 20 株/㎡）

時期	葉色（葉色板）	茎数（本/㎡）	葉色×茎数
出穂前 30 日	3.9～4.2	470～500	1,850～2,100
出穂前 15 日	3.6～4.0	400～430	1,450～1,700

葉色が淡く、診断値（葉色×茎数）が指標値以下　⇒　出穂 18 日前（幼穂長が 8mm）
葉色が濃く、診断値（葉色×茎数）が指標値以上　⇒　出穂 10 日前（幼穂長が 8cm）

～穂肥施用のための出穂前日数の確認の仕方～



出典：「安心イネつくり」p66(農文協)

①平均的な生育の株を探します。
②草丈の最も高い茎１本を根をつけたまま取ります。
③左図のように、カッターナイフ等で稲の茎を縦割りします。
④幼穂の長さを確認し、穂肥の施用時期を確認します。
例えば、幼穂の長さが
5mm の場合、出穂前約 20 日
8mm の場合、出穂前約 18 日
20mm の場合、出穂前約 15 日
80mm の場合、出穂前約 10 日、となります。

生育のバラツキを考え、５株程度、幼穂の長さを確認してみましょう。

8　いもち病

BLASTAM による葉いもち感染好適条件判定結果では、6 月 24 日に小山アメダスで、感染好適条件が発生しています。いもち病は気温 25℃～28℃で湿度の高い条件で感染拡大がすすみます。梅雨に入ると発生が多くなりますので、ほ場をよく見回り、早期発見・防除に努めましょう。また、いもち病の発生源となる取り置き苗は早急に処分するようにしましょう。

BLASTAMによる葉いもち感染好適条件判定結果（令和6年度）

日付	小山	佐野
6月10日	4	―
6月11日	―	―
6月12日	―	―
6月13日	―	―
6月14日	―	―
6月15日	―	―
6月16日	―	―
6月17日	―	2
6月18日	―	―

日付	小山	佐野
6月19日	―	―
6月20日	―	―
6月21日	―	―
6月22日	―	―
6月23日	―	4
6月24日	●	―
6月25日	―	―
6月26日	―	―

発生指標	
?	判定不能
―	好適条件なし
1	準好適条件1
2	準好適条件2
3	準好適条件3
4	準好適条件4
●	好適条件

9　普通植・水稲生育診断ほ(栃木市皆川城内町)の生育調査結果

6 月 22 日時点では、生育は一昨年並みで順調に進んでいます。

茎数の少ない場合は夜間かん水、日中は浅水管理（水深 2～3cm）を行い、茎数を早期に確保しましょう。必要茎数（360～380 本/㎡）が確保されたら間断かん水に移行しましょう。

表３　水稲生育診断ほ（栃木市皆川）の生育調査結果

品種：とちぎの星 移植日：5 月 23 日	本　年 (6 月 22 日調査)	一昨年
草丈(cm)	34.5	31.8
茎数(本/㎡)	354	291
葉齢	7.8	7.4
葉色(葉色板)	4.1	4.5
生育診断値(葉色×茎数)	1,441	1,307

※昨年は薬害が発生したため一昨年と比較しています。

問い合わせ先
栃木県下都賀農業振興事務所　経営普及部　農畜産課　0282-24-1101
HP　http://www.pref.tochigi.lg.jp/g54/index.html